

長野県社保協ニュース <21-12>

2016年10月5日(水) 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

http://www.n-syaho.com

E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

期待高まる 10月30日開催予定の 長野県の医療・介護のこれからを考える県民集会

<分野別報告者4名決定> ②・③が新たに決定

- ①住民の立場：井口利夫氏（木曽病院・木曽地域の医療を守る会会長）
- ②療養病院の立場：小林由美子氏（佐久総合病院小海分院統括看護部長）
- ③開業医の立場：原政博氏（阿南町・新野へき地診療所所長）
- ④訪問看護師の立場：丸橋留美子氏（上田生協訪問看護ステーション所長）

* 集会の進行役：熊谷嘉隆氏
（飯田中央診療所所長・県民医連会長）

* メイン講演は、

諏訪赤十字病院院長：大和真史氏

10月30日(日)開催予定の「長野県の医療・介護のこれからを考える県民集会」、懸案であった各分野からの報告者4名が決まり、集会成功に向け準備活動がすすめられています。

今回新たに報告者に決まった小林由美子さんが勤務している佐久総合病院小海分院は、一般病床42床、地域包括ケア病床8床、医療療養病床49床をもつ99床のケアミックス型の病院で、佐久総合病院と連携して、

長野県の医療・介護のこれからを考える 県民集会
これでいいの！
病床削減計画

10月30日(日) 午後1時～4時頃 岡谷市文化会館 小ホール (カノラホール) 入場無料
2016年

1 メイン講演
「諏訪地域における
病院長連絡会の
とりくみを通じて」
諏訪赤十字病院院長
大和真史氏
昭和44年 佐久赤十字大学
平成25年 現職 諏訪赤十字病院

2 各分野からの報告 (進行役 鎌倉和郎氏 飯田中央診療所 熊谷嘉隆氏)
●住民の立場から 井口利夫氏 (木曽病院・木曽地域の医療を守る会 会長)
●療養病床をもつ病院から 小林由美子氏 (佐久総合病院小海分院統括看護部長)
●開業医の立場から 原政博氏 (阿南町・新野へき地診療所所長)
●訪問看護師の立場から 丸橋留美子氏 (上田生協訪問看護ステーション 所長)

3 フロアからの自由発言

主催：長野県医師会連合会（県医労連・保険医協会・県民医連・県療養連）
連絡先：長野県社会保障推進協議会 Tel.026(223)1281

南佐久郡南部地域で医療活動を展開しています。小海分院は、近隣の小海診療所と80床の老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を一体的に運営しています。報告者の小林さんは、3施設の統括看護部長をしています。

開業医の立場から報告を引き受けて頂いた新野へき地診療所の原政博所長は、下伊那郡阿南町で在宅医療を含め山間部の地域医療を担っています。原先生は、飯田医師会の地域包括ケア推進特命理事をしており、飯伊地域の地域包括ケア体制の構築に向け奮闘されています。原先生は、8月に開催された飯田医師会と飯田市との懇談会にも出席して、以下のような発言をしています。(8月3日付け南信州新聞より抜粋)「飯田医師会の原政博・地域包括ケア推進特命理事は、『在宅療養は、ある程度の居宅介護力がなければできない。在宅医療の受け入れシステムは現状のままでは難しいが、病床削減、在宅誘導の道が国によって半強制的に進められようとしている』などと懸念し、『療養病床数の一律削減が地域崩壊につながりかねない』と警鐘を鳴らした。」と。

住民の立場から報告予定の井口利夫氏は、木曽町在住で学校長を歴任した方で、「木曽地域で唯一の病院である木曽病院の在り様、病床削減は木曽地域住民のいのちに係わる重大問題である」と危機感を持ち、住民組織を立ち上げ活動しています。井口氏の会では木曽地域の各町村で住民懇談会を開催しています。また、訪問看護師の立場から報告頂く丸橋留美子氏は、上田生協診療所や併設した老人保健施設と連携して上小地域での訪問看護活動を展開しています。

メイン講演を引き受けて頂いた諏訪赤十字病院の大和真史院長は、諏訪地域の各病院長が参加する病院長連絡会のとりくみ紹介しながら、国・県が主導する病床削減を含めた地域医療構想への意見を表明していただくことになっています。進行役は、県民医連会長で飯田中央診療所の熊谷嘉隆氏です。

多彩なメンバーで開催される県民集会に対して、長野県の医療・介護のこれからを考える機会として期待が高まっています。集会成功に向け、各加盟団体でのとりくみの強化をお願いします。